



JA新しいわての自己改革

もっと知ろう、JAの取り組み

JA新しいわての「農家所得の増大」や「農業生産の拡大と経営基盤の安定」に向けた取り組みを紹介。今月は「多様な担い手への支援強化」を紹介します。

多様な担い手への支援強化

■ 常勤役員による担い手農家訪問を行っています

地域農業の中核となる担い手農家を直接訪問し、生産現場の課題やJAへの要望を聞き取り、当JAによる支援策の検討、事業運営に反映させるよう「声を聴く」運動を実施しています。

常勤役員による担い手農家訪問は、今年度は平成30年4月～平成31年3月末まで実施し、各エリアを常勤役員がそれぞれ訪問しており、11月末までに約100戸を訪問しています。



■ 生産現場からいただいた声をご紹介します

- **繁忙期の労働力が不足しているので、地域雇用ができるよう情報や支援をお願いしたい。**
→ 無料職業紹介事業を進めています。平成31年度より本格稼働し、生産振興に寄与できるよう取り組んでまいります。
- **営農組合の法人化を進めたいと考えているので、指導・協力をお願いしたい。**
→ 担い手サポートセンター事業のコンサル事業があるので、税理士や社会保険労務士など専門家からのアドバイスを受けることができます。
- **大口購買取引者にもっと優遇措置を講じてほしい。**
→ 大型規格や安価な農薬や肥料等を定めておすすめしていますが、知られていないこともあるので、予約注文時に具体的にご相談を頂きたい。仕入業者とも連携し、他社に負けない生産資材価格となるよう努力してまいります。

その他、訪問によりJAに対するお礼の言葉もいただきました。

- ・ 畜産クラスター事業の導入にかかる支援を頂き、新農場の完成の目途が立ち感謝します。
- ・ 地産地消活動の協力を頂き感謝します。
- ・ 振興対策事業により園芸品目の拡大ができた。この後も指導等の支援をお願いしたい。



代表理事組合長 おの でら けいさく 小野寺 敬作

組合員農家の皆さまを訪問することで、皆さまが日頃感じていることを聞くことができました。今、何に困っているのか、これから何が必要なのか、それぞれ将来を見据えた前向きなお話を多く頂いています。今後も継続し、皆さまの声を生かしたJAの事業運営に取り組んでまいります。